琉球新報　第3種郵便物認可

共に考える住宅デザイン

○129○

甲斐　徹郎

「かけ算型」住まいづくり

連鎖する快適性

外と家との「関係」活用

3コマ漫画を描いてみました。①がよくある状況だと思います。街全体が暑くなってしまって、クーラーなしではとても暮らすことができない状況です。一方③は、クーラーなしでも心地よい理想的な街の様子を描いてみました。

今回は、街の環境を③のように変える方法について考えてみたいと思います。

①を③に変える場合、街全体での協議が必要で、そのためには、行政にも関与してもらう必要があると、普通は考えると思います。そう考えると、調整の枠組みがどんどん大きくなってしまい、個人の力では対応が不可能だと誰もが思ってしまうはずです。

そんな全体での調整を考えずに、個人が自分のためにできることをやりさえすれば、それだけで街の環境は変えられるということを提案したいと思います。

それは、いたって簡単です。この漫画の真ん中の住人をAさんだとすると、Aさんが自分のために②のような対応を始めさえすればいいのです。

Aさんの家の快適性は、①と②とでは、明らかに②の方が高くなります。

①の場合は、家の周囲が太陽光によって六〇度近くまで熱せられます。その周囲にたまった熱が室内に影響するから暑いのですが、②の場合は、その熱だまりが緑陰によって和らげられますから、快適性が高まるのです。

私は、①を「足し算型」の住まいづくり、②を「かけ算型」の住まいづくりと呼んでいます。

「足し算型」とは、快適性を高めるための部材を集めて、それを足し算のように付け加えていくというやり方で住まいをつくる方法です。

快適性を実現させるために、「足し算型」では、「部材」を活用するのに対して、「かけ算型」では、「関係」を活用します。

②の場合は、外の環境と家との「関係」をつくりだすことで、室内の快適性を得ています。樹木によって外の環境を良くすれば、室内は、その「かけ算」によって良くなるという方法です。

Aさんの家だけでなく、隣のBさんが、この「かけ算型」によって快適性を追求し始めたとします。すると、Aさん単独の場合とは違って、Aさんの緑とBさんの緑とが「関係」を結ぶことによって、双方が得る快適性は倍増することになります。

こうして、Aさん、Bさん、Cさんと、その取り組みが連鎖すれば、快適性は「かけ算」のようにどんどん膨れあがっていくというのが、「かけ算型」住まいづくりの特徴です。

「かけ算型」の面白いところは、「関係」が価値をつくるという点です。街の環境改善を図ろうとするとき、全体を計画するのではなく、個人個人の街との「関係」を導くことが重要です。

この「関係」さえ芽生えれば、街全体の環境は変わり始めます。

（マーケティング・コンサルタント）

①

②

③